

徳島大学における入試広報の検討 ー入試広報アンケート分析からー

上岡 麻衣子, 植野 美彦, 関 陽介

徳島大学高等教育研究センターアドミッション部門

1. はじめに

近年, 18歳人口の減少が危惧されるなかで, 志願者の確保を目的とした広報活動の重要性は一層高まるものと考えられる。入試広報をより効果的なものにしていくためには, 志願者や入学者の動向を継続的に把握し, それを広報活動に活かしていくことが重要になる。

そこで, 本稿では2022年度の新入生を対象とした入試広報アンケート結果と過去のアンケート結果をもとに, 徳島大学を受験した理由, 本学を知るきっかけとなった情報媒体等を分析し, より効果的な入試広報について検討を行う。

2. 調査方法

2.1 回収方法

2022年度入学者(私費留学生, 編入学生, 大学院生を除く)1,298名を対象とし, Microsoft Formsを用いたWeb入力で行った。回答者数は746名で, 回答率は57.5%になった。調査期間は2022年4月1日(金)～4月28日(木)になる。

2.2 質問項目

アンケートの質問項目は以下になる。

- 徳島大学を受験した理由は何ですか。
(21項目: 複数回答)
- 徳島大学を知るきっかけとなった情報媒体は何ですか。(16項目: 複数回答)
- 「b.」のうち, 徳島大学に興味を持つきっかけとして, 最も影響が大きかったものを一つだけ選択してください。(16項目)

3. 結果と考察

a. 徳島大学を受験した理由については, 「国立大学だから」が一番多く, 次に, 「共通テストの結果を勘案したから」, 「志望分野があったから」となった(図1)。

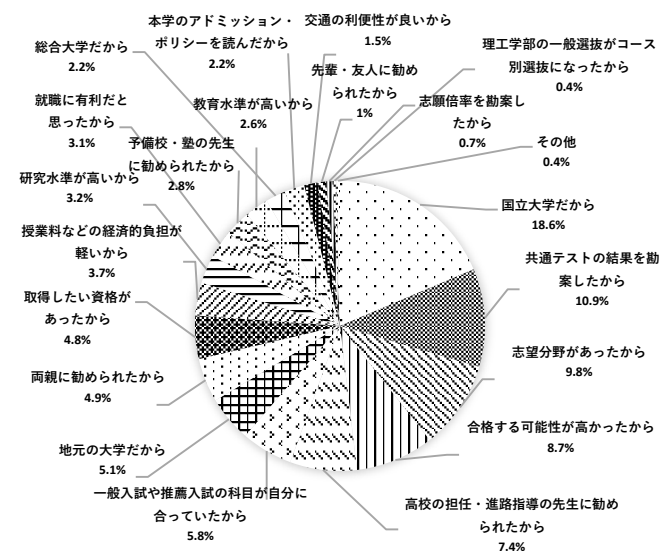


図1 受験した理由 (2022年度)

過去5年間と比較すると「志望分野があったから」の割合が減少し, 逆に, 「高校の担任・進路指導の先生に勧められたから」や「予備校・塾の先生に勧められたから」, 「両親(親族)に勧められたから」が増加傾向にあった(図2)。

b. 徳島大学を知るきっかけとなった情報媒体については, 「高校の担任・進路指導の先生から」が一番多く, 次に, 「本学ホームページ」, 「進学情報サイト」となった(図3)。

2016年度～2020年度は, 徳島大学の情報はどこから得ましたか。と質問していたのでその結果を示す。過去5年間を比較すると, 大学案内や学部パンフレット等の本学発行物で情報を得る入学者の割合が減少し, 逆に, 進学情報サイトからの割合が増加傾向にあった(図4)。

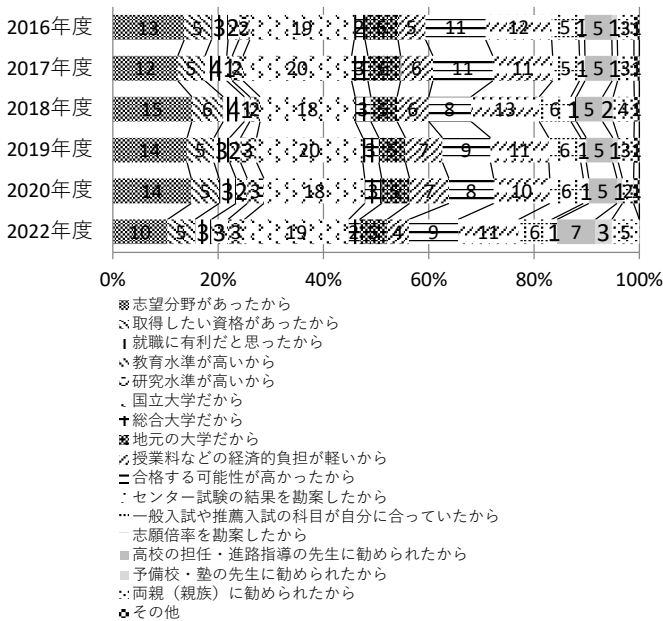


図2 受験した理由（2016年度～2022年度）

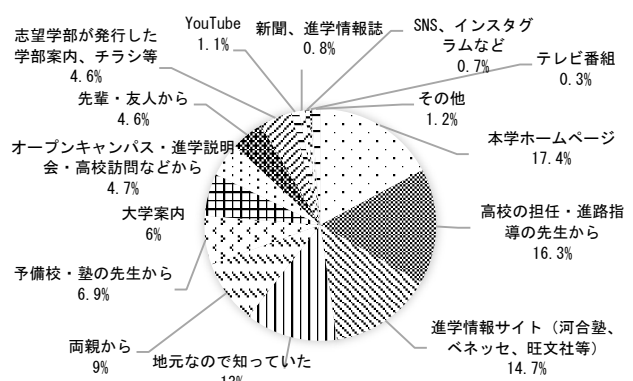


図5 情報媒体の影響度（2022年度）

4. 分析結果に基づく入試広報

徳島大学を受験した理由や興味を持つきっかけとして高校教員が強く影響していることが示された。また、ホームページや進学情報サイトから情報を得る入学者も多いことからアドミッション部門として、高校教員へのアプローチ、ホームページの充実、進学情報サイトへの積極的な掲載を行っている。

高校教員へのアプローチとして、毎年6月に高校教員対象入試懇談会を中四国・近畿・中部地方の7会場（四国地区の国立5大学の合同入試懇談会も含む）で開催しているが、次年度は九州地方でも開催する予定である。また、開催形式も現地開催だけでなく、高校教員が参加しやすいようにWEB開催またはその両方を使用したハイブリット型、オンデマンド配信を展開する。

ホームページの充実では、大学案内2023からWEBへ誘導するために2次元コードの掲載や就職実績をアピールするために就職・進路ページをリニューアルした。また、2022年5月末に本学ホームページの入試情報を受験生サイトに1本化したことで、ページビュー数やメルマガの会員数、全学説明会の申込者数等が大幅に増加している。

今後の課題として、入学志願者を対象としたアンケート調査も検討していきたい。入試広報活動は、すぐには効果を期待できるものではなく、その効果についても検証が難しい。しかし、18歳人口が減少し、大学全入時代に突入する中で志願者を安定的に確保するためには、大学教育の質を向上させ研究力を高めることはもちろん、志願者・入学者の動向を継続的に把握し、入試広報の改善に向けて検証していく必要があると考える。

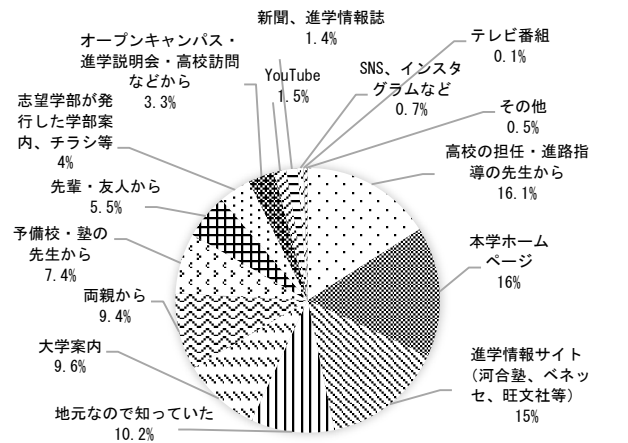


図3 知るきっかけとなった情報媒体（2022年度）

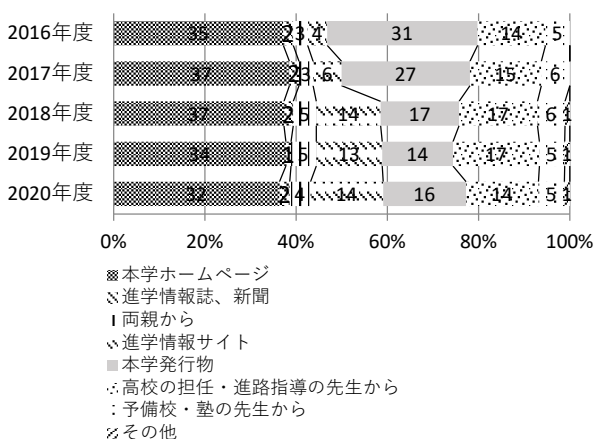


図4 情報を得た手段（2016年度～2020年度）

c. 「b.」のうち、徳島大学に興味を持つきっかけとして、最も影響が大きかったものについては、「本学ホームページ」が一番多く、次に、「高校の担任・進路指導の先生から」、「進学情報サイト」となった（図5）。